

医者と音楽と私

旭川医科大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
 みやこし かおる
宮越 薫

寒冷の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

初めまして。旭川医科大学卒、現在同大学病院の耳鼻咽喉科後期研修医の宮越薫と申します。日々の業務では病棟管理、外来、手術という様々な部分で質の高い知識とスキルが必要であり、自分の未熟さを痛感しておりますが、上級医の先生方にもサポートいただき、診療のレベルアップに努めております。

本企画のバトンを渡していただいた相原宏紀さんとは大学の軟式テニス部の同期であり、テニスの実力のみならず、部の主将として唯一無二の存在感とリーダーシップで東医体でも大活躍したチームメイトです。そんな相原さんも自身に様々な葛藤を抱え、それでも部のため、人のために行動していた姿は今振り返ってもなお尊敬の念に堪えません（北海道医報1251号の相原さんのエッセイを是非ご覧ください）。卒業後も連絡を取り合う、そんな大好きな同級生の人からの紹介でしたので、喜んでお受けしました。

そんな自分ですが、野暮ったかった高校までの自分を打破するために大学デビューをしたい(?)と意気込み、その一環でそれまでは聴く専門だった音楽を演奏してみようと大学に入るなり吹奏楽部、軽音楽部、合唱部等にも入部し活動していました。その中でギター部というアコースティック部にも所属していましたが、そこで心動かされることができました。

その前にギター部という素晴らしい部活の紹介をさせていただきます。同部は定期的な演奏活動として、大学病院のロビーで入院中の患者さんを聴き手の中心にしたコンサートを開催しております（コロナ後現在に至るまで再開の見通しは立っていません）。聴衆の年齢層も考え新旧織り交ぜた曲目で構成し、部員が若者の間のヒット曲をギター1本で弾き語りしたと思えば、打って変わってキーボードや力ホン、管弦楽器等も参加して7~8人で演歌を演奏したりと自由なスタイルで活動しています。演奏技術や完成度はもちろんアマチュアの域を脱しませんが、部員は勉学や兼部を抱えながらも必死に練習し本番に臨みます。患者さんの中には手拍子をしながら笑顔で楽しんでいる方もおり、演奏後は各部員がやりがいを感じ、次のコンサートに向けて技術向上に励んでいます。

そんな中、大学3年生秋のコンサートだったでしょうか。コンサート終了後聴きに来てくださった方々をお見送りする際、車いすに乗った女性の患者さんが涙を流しながら「今の治療がとっても辛くて心が折れそうになっていたところでした。だけど、ここで懐かしい曲が聴けたり、皆さんが一生懸命演奏している姿を見て本当に感動しました。治療、もう少し頑張れそうです。本当にありがとうございます」と声を掛けていただいたことがあります。

もちろんその患者さんとはその場で初めて会話をしましたし、その方がどんな病気でどの科に入院し



札幌生まれ、旭川育ち。旭川東高校、旭川医科大学卒です。現在は医師3年目で、旭川医科大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科で専攻医1年目として勤務しております。大学では軟式テニス部とギター部等の音楽系の部活で活動していました。写真はギター部病院ロビーコンサート時のものです。

ているかも分かりませんでした。ただその方はコンサートを通じて私たちに今思っている気持ちを吐露することができ、治療へ少し前向きになれたのだと信じています。だとすれば、人の気持ちをそうたらしめる媒体であるコンサート、ひいては音楽はこんな力があるのかと驚いたのを鮮明に覚えています。と同時に、医療者にも音楽と同様のスキルが求められているのではないかと感じました。

ある一人が今まで生きてきた人生全てをイメージし追体験することは不可能であると思っております。ただそのプロセスを分かりたい・分かろうとする気持ち、そして目の前にいる人が何を感じ、今どんな痛み・辛さを抱えているのかを日々のやり取りの中で引き出し共有できれば、医療において患者と医療者の枠を超えたより強固な信頼関係を築き上げられ、治療にも進んでいけるのではないかと思います。

最近では頭頸部癌の化学放射線療法で長期入院している患者さんと関わる機会も多く、その方々が長い闘病生活の中で身体的にも精神的にも消耗している場面によく遭遇し、その度に声掛けや対応に難渋します。そんな時に一人の医療者として、病気の知識を豊富に持ち治療にあたることはもちろんのこと、一人の人間として、私たちがその「媒体」となり、患者さんの気持ちに寄り添う手立てを身に付けていきたいと思いつつ、日々病室のドアをノックするようにしています。

因みにその患者さんがいた時には、美空ひばりの「川の流れのように」がプログラムに入っていた記憶があります。その頃からいわゆる懐メロが大好きとなり、大学を卒業した今でもスマートフォンの音楽アプリで懐メロを探してはグッときた曲をダウンロードしております。最近特にハマっている曲は上田正樹の「悲しい色やね」、松田聖子の「いちご畑でつかまえて」です。

私自身まだまだ半人前にもなっておらず、診療も暗中模索の毎日ですが、石原裕次郎の「わが人生に悔いなし」のように、今この瞬間を一所懸命に生きていこうと思うこの頃でした。

現在の世界を覆うコロナの情勢が1日でも早く好転することを願って…次のリレーエッセイの方にバトンを繋ぎます。駄文・長文で大変申し訳ありませんでしたが、最後までお読みいただき、ありがとうございました。